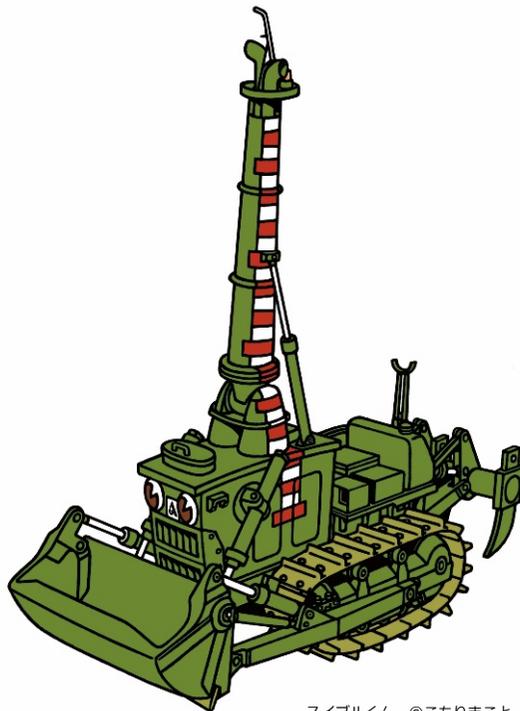




青木あすなる建設

TakaMatsu Group

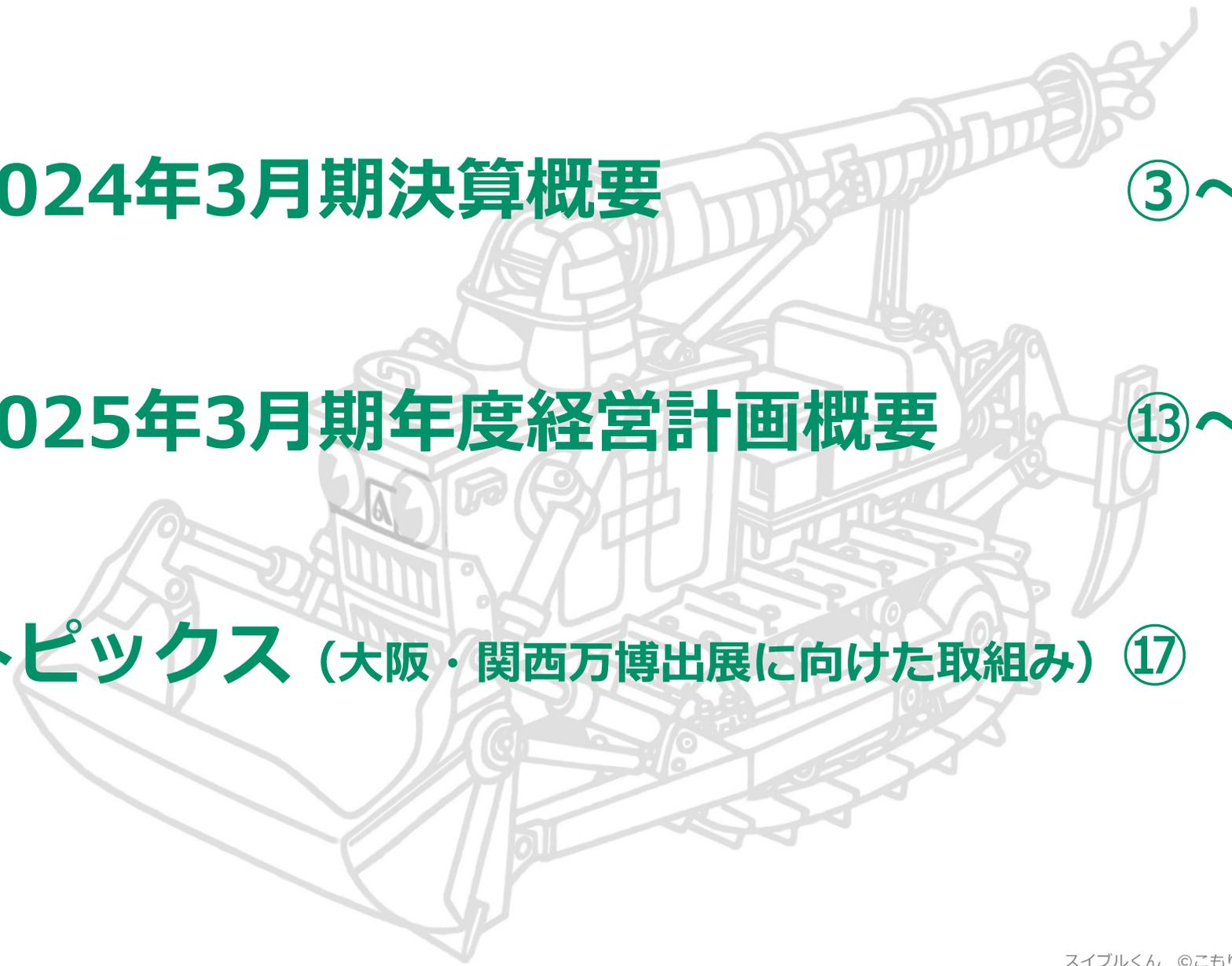
2024年3月期決算説明資料



スイブルくん ©こもりまこと

青木あすなる建設株式会社

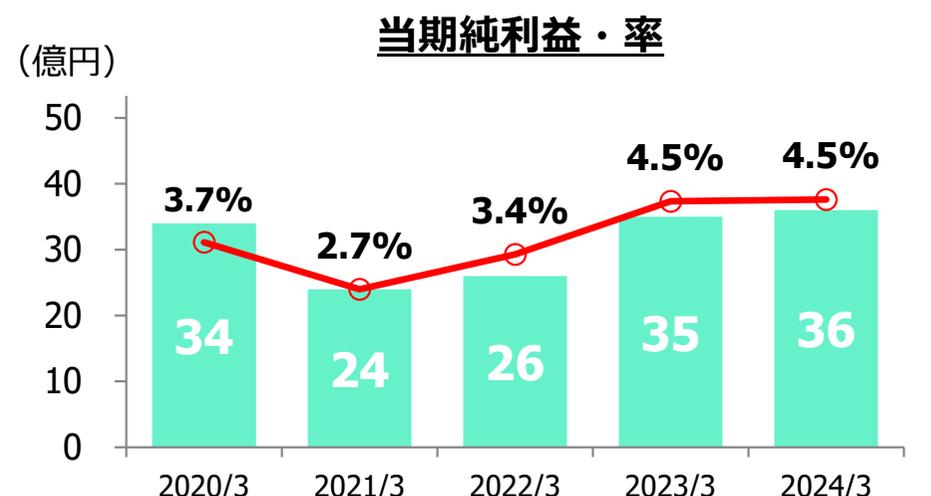
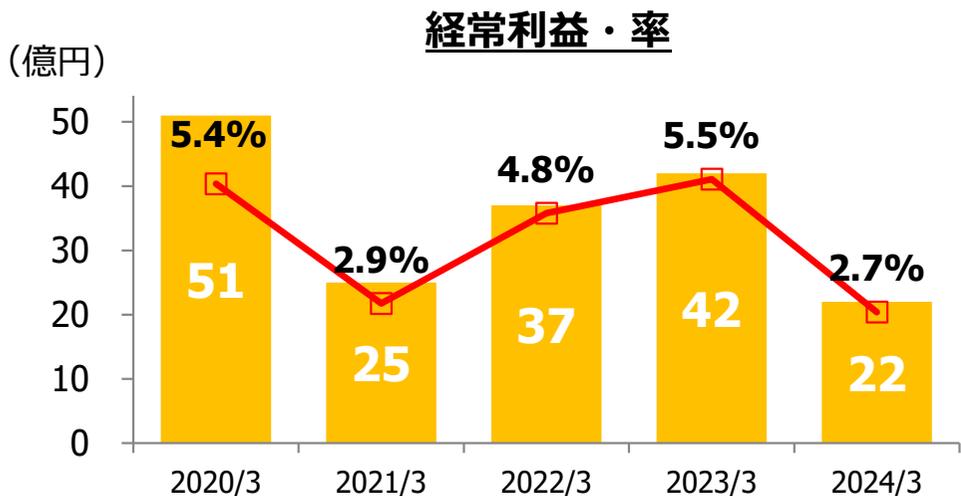
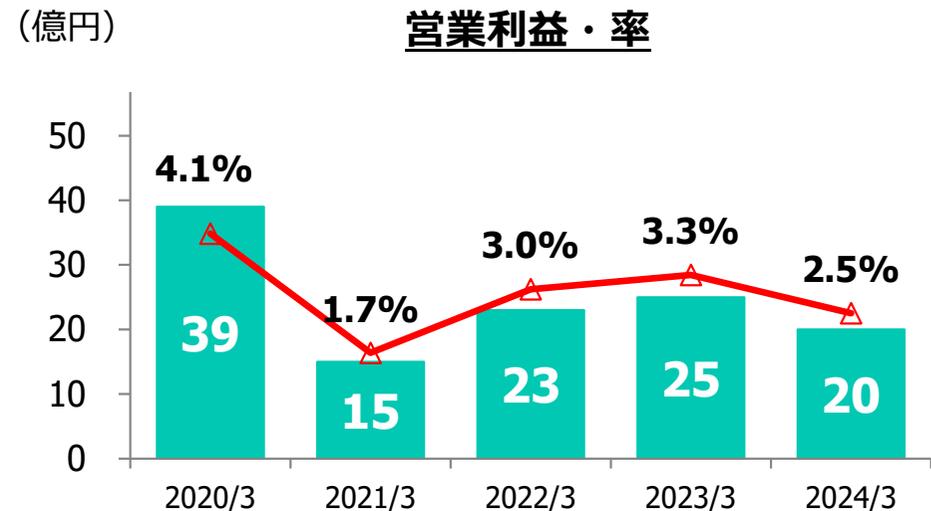
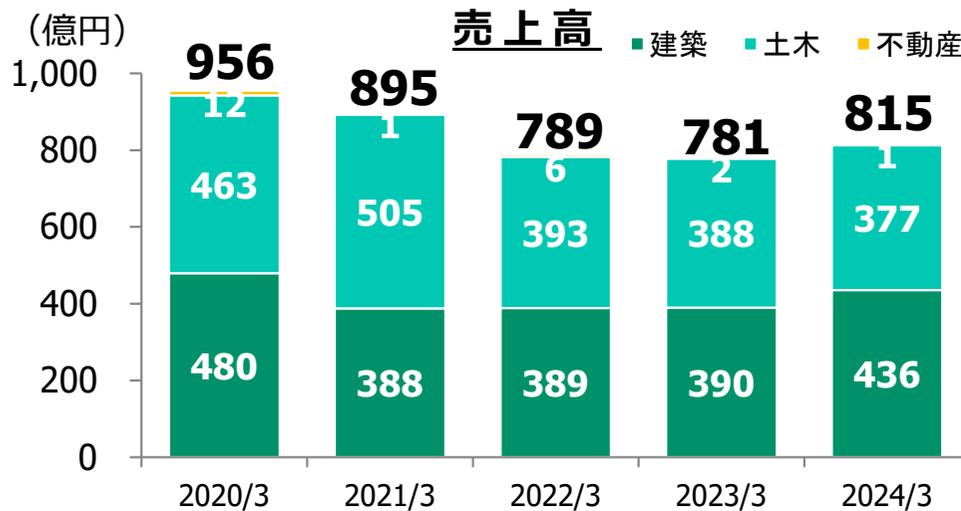
2024年5月

- 
- 2024年3月期決算概要 ③～⑫
 - 2025年3月期年度経営計画概要 ⑬～⑯
 - トピックス（大阪・関西万博出展に向けた取組み） ⑰

2024年3月期決算概要

- 売上高は豊富な手持工事が順調に進捗し、前期比**増収**となったものの、営業利益は物価上昇等による採算悪化により売上総利益が減少し、前期比**減益**。経常利益はグループフォーメーションの変更による受取配当金の減少があり、前期比**減益**。当期純利益は政策保有株式の売却益、繰延税金資産の追加計上により、前期比**増益**となりました。

(億円未満切捨)

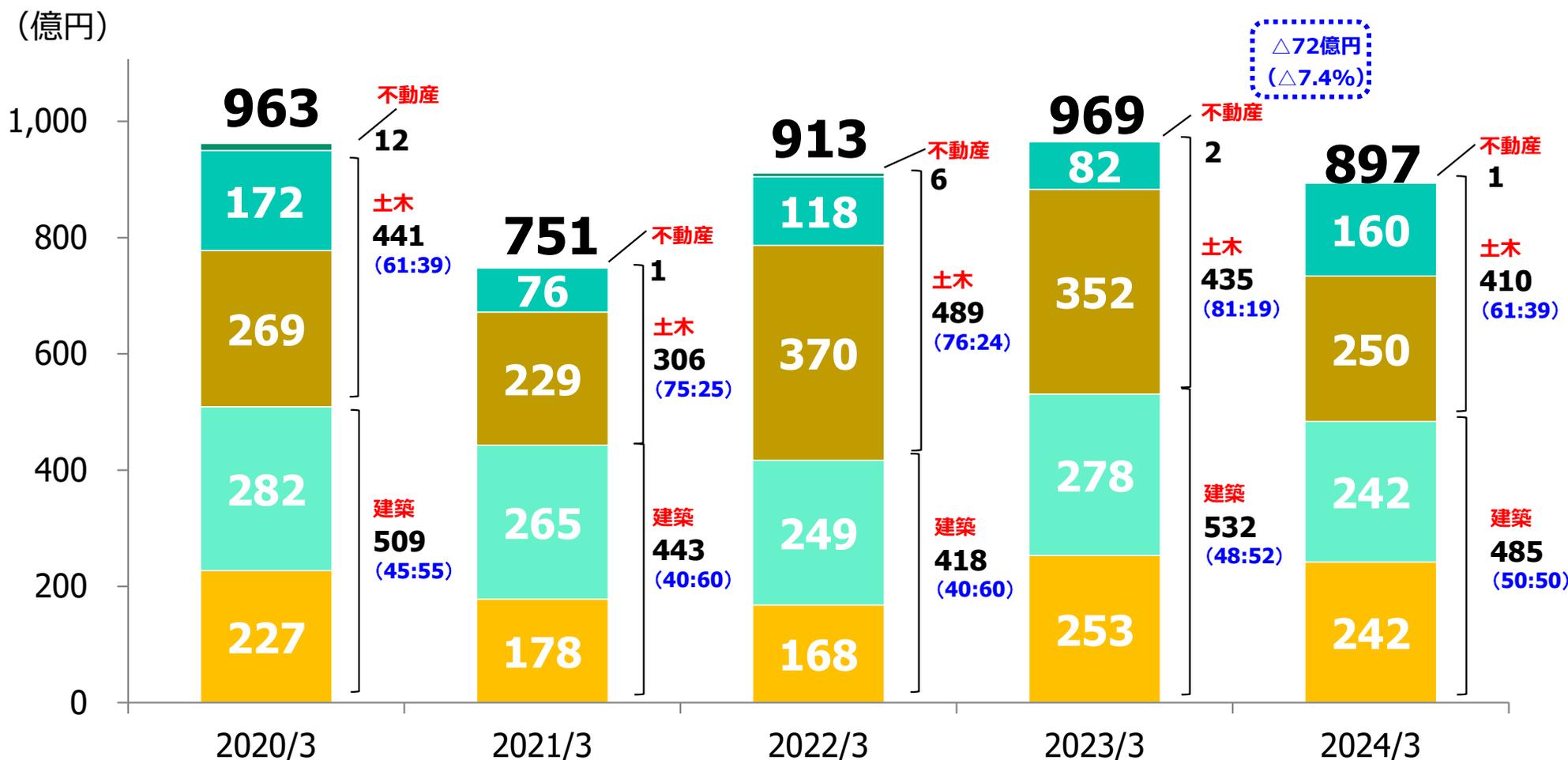


- 建築は好調だった前期の反動で官庁・民間とも減少し、建築全体では前期比46億円(8.8%)の減少。土木は主に官庁工事の減少等により、前期比24億円(5.6%)の減少。全体では72億円(7.4%)の減少。

■ 建築(官庁) ■ 建築(民間) ■ 土木(官庁) ■ 土木(民間) ■ 不動産

(億円未満切捨)

()は官庁：民間の受注比率を示す。



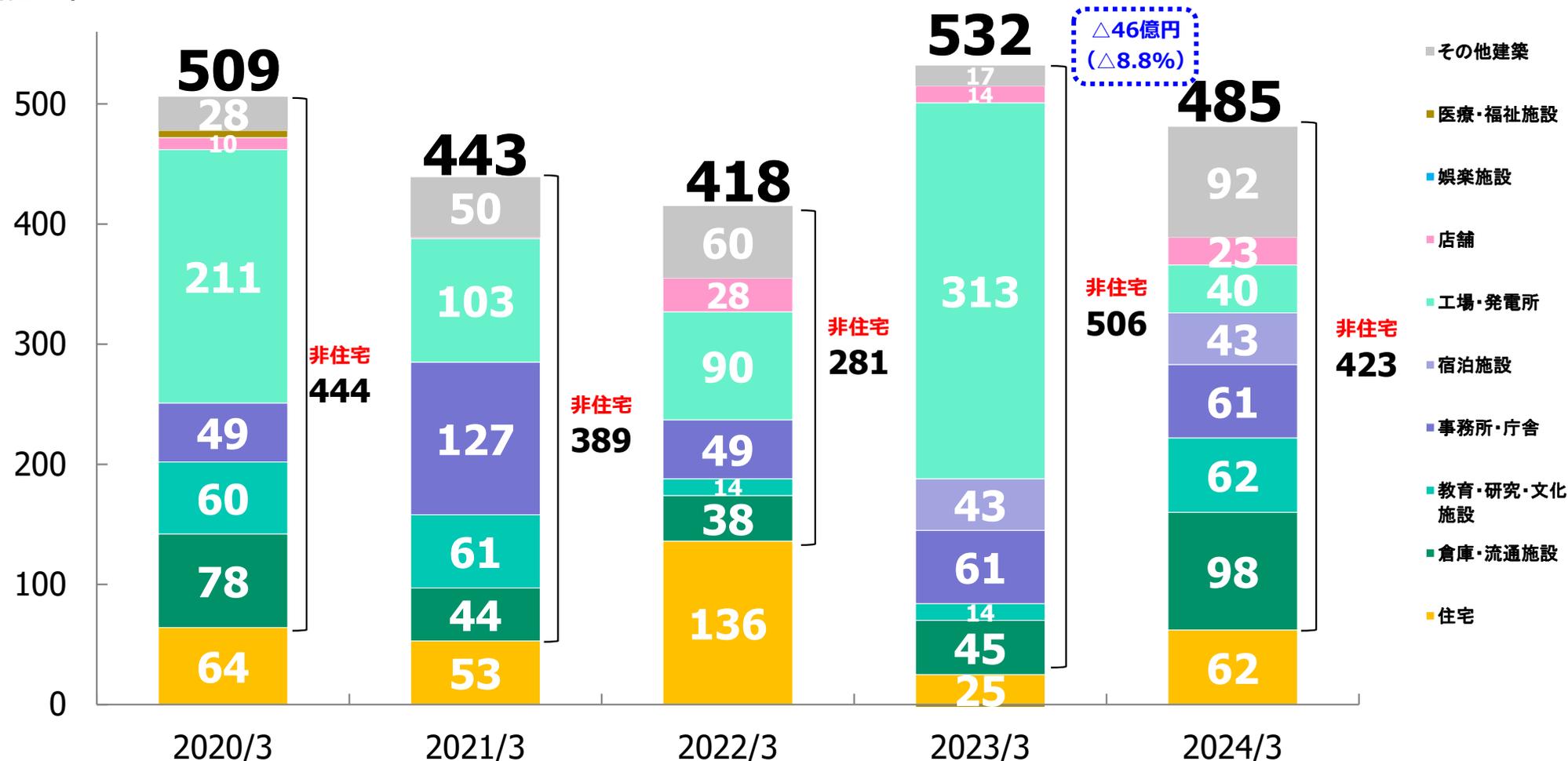
- 非住宅分野は前期に大型のごみ処理施設の受注があった反動で、全体で**減少**。住宅分野は**増加**し、建築全体では**前期比46億円 (8.8%) の減少**。

10億円未満の分野は数値の記載を省略。

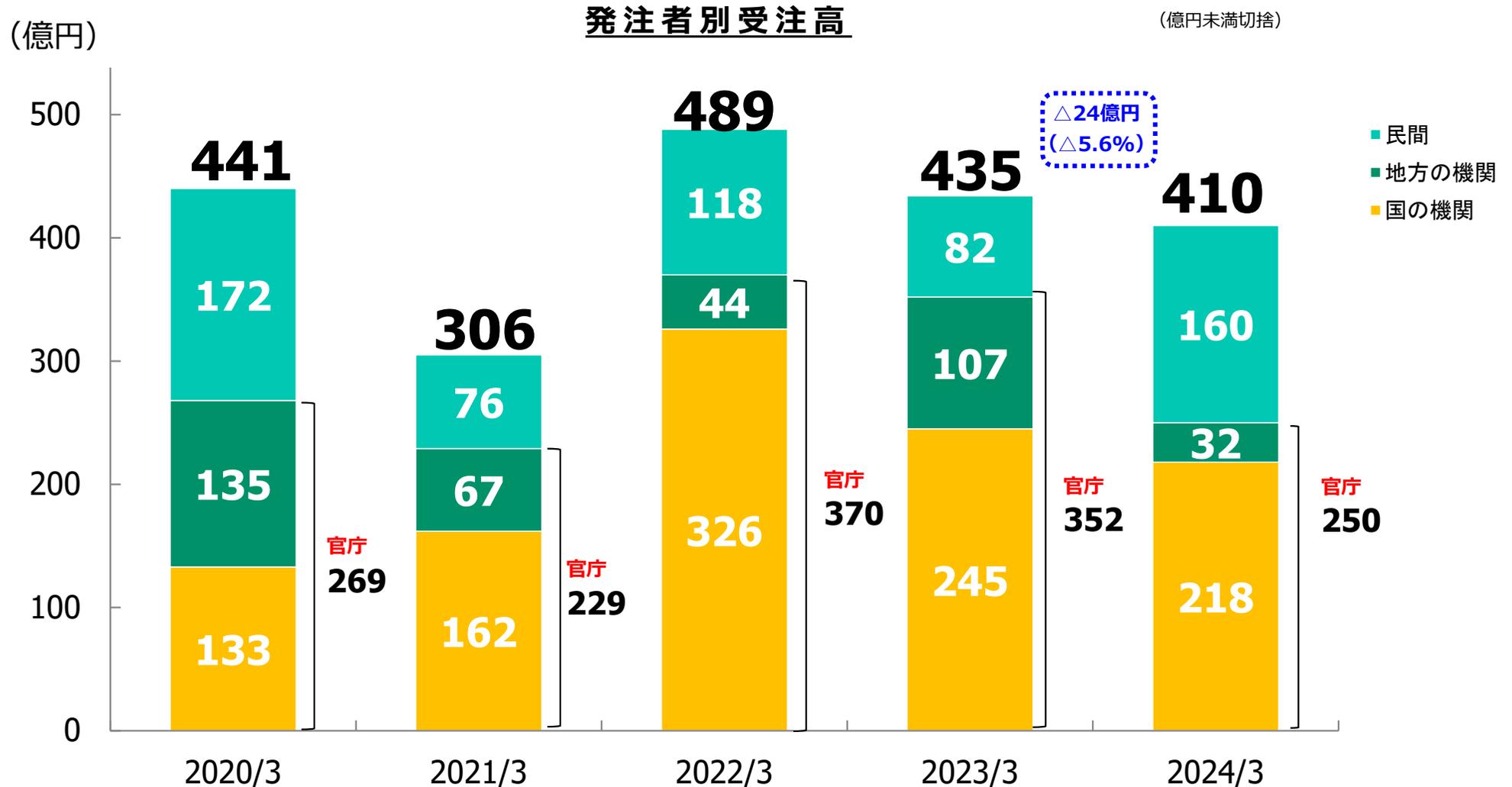
用途別受注高

(億円未満切捨)

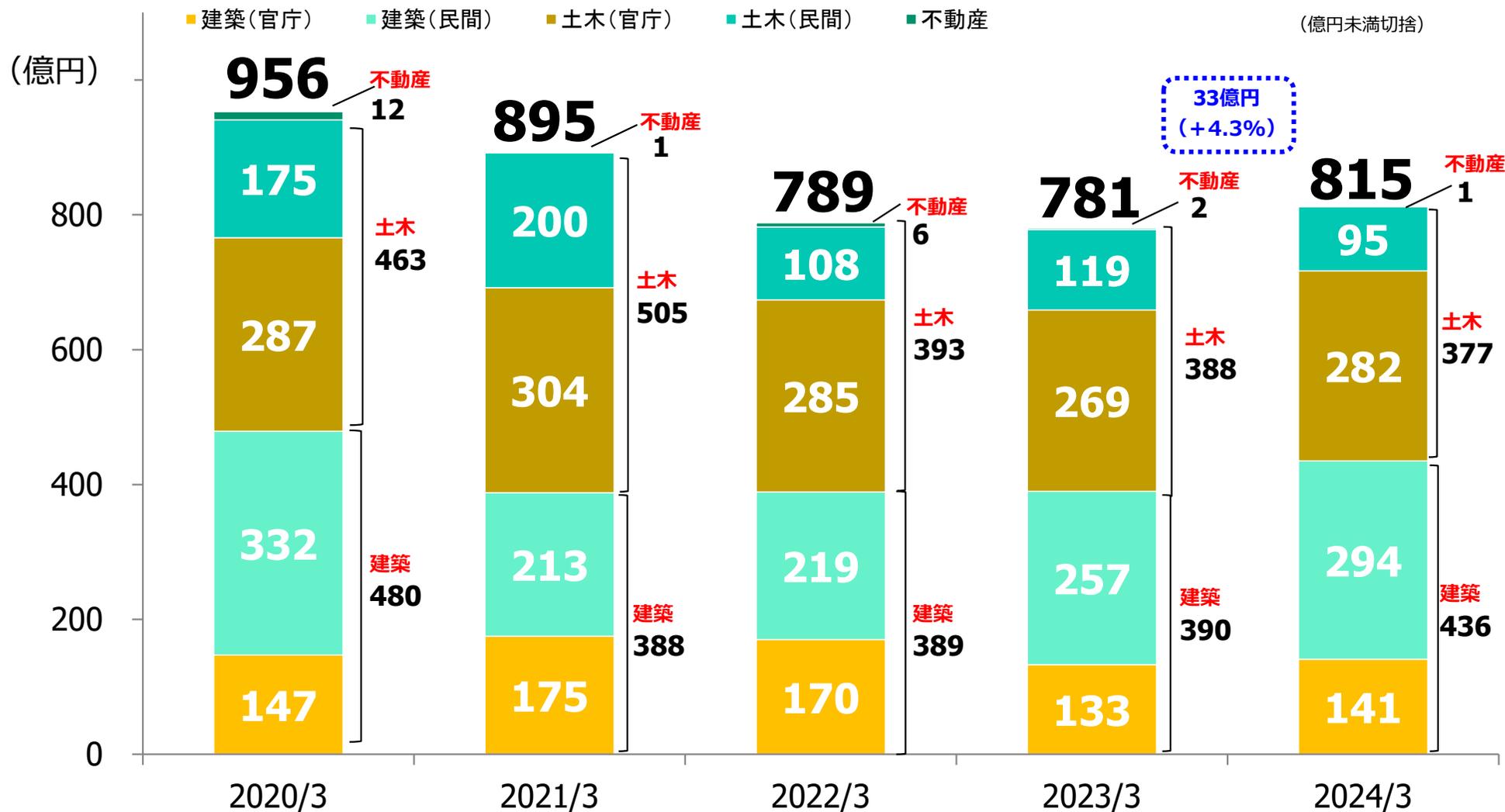
(億円)



- 官庁は中央・地方ともに減少、民間は再生可能エネルギー分野の大型風力発電所案件の受注により増加し、土木全体では前期比24億円 (△5.6%) の減少。

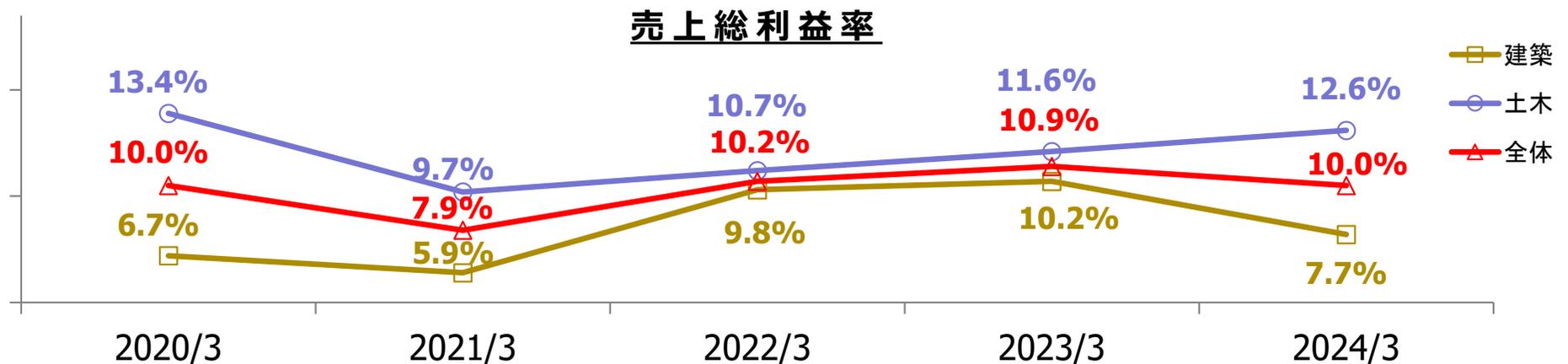
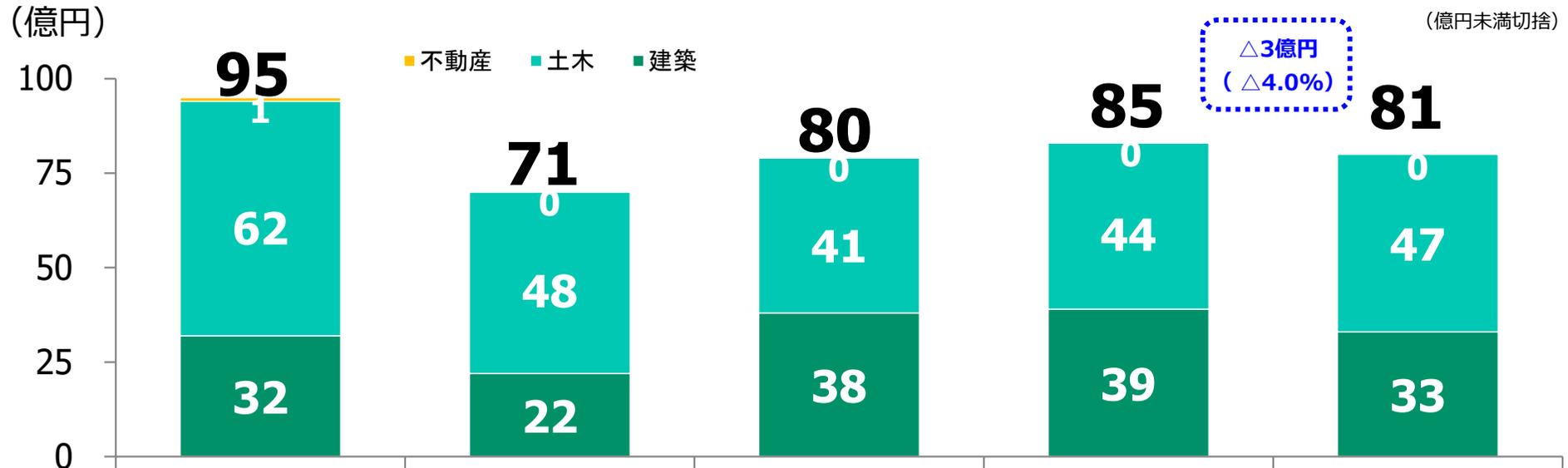


- 建築は手持工事の順調な進捗により前期比**増収**。土木は受注した大型工事の大半が準備工事のみであったため、出来高に大きく寄与せず前期比**減収**。全体では前期比**33億円 (4.3%) の増収**。



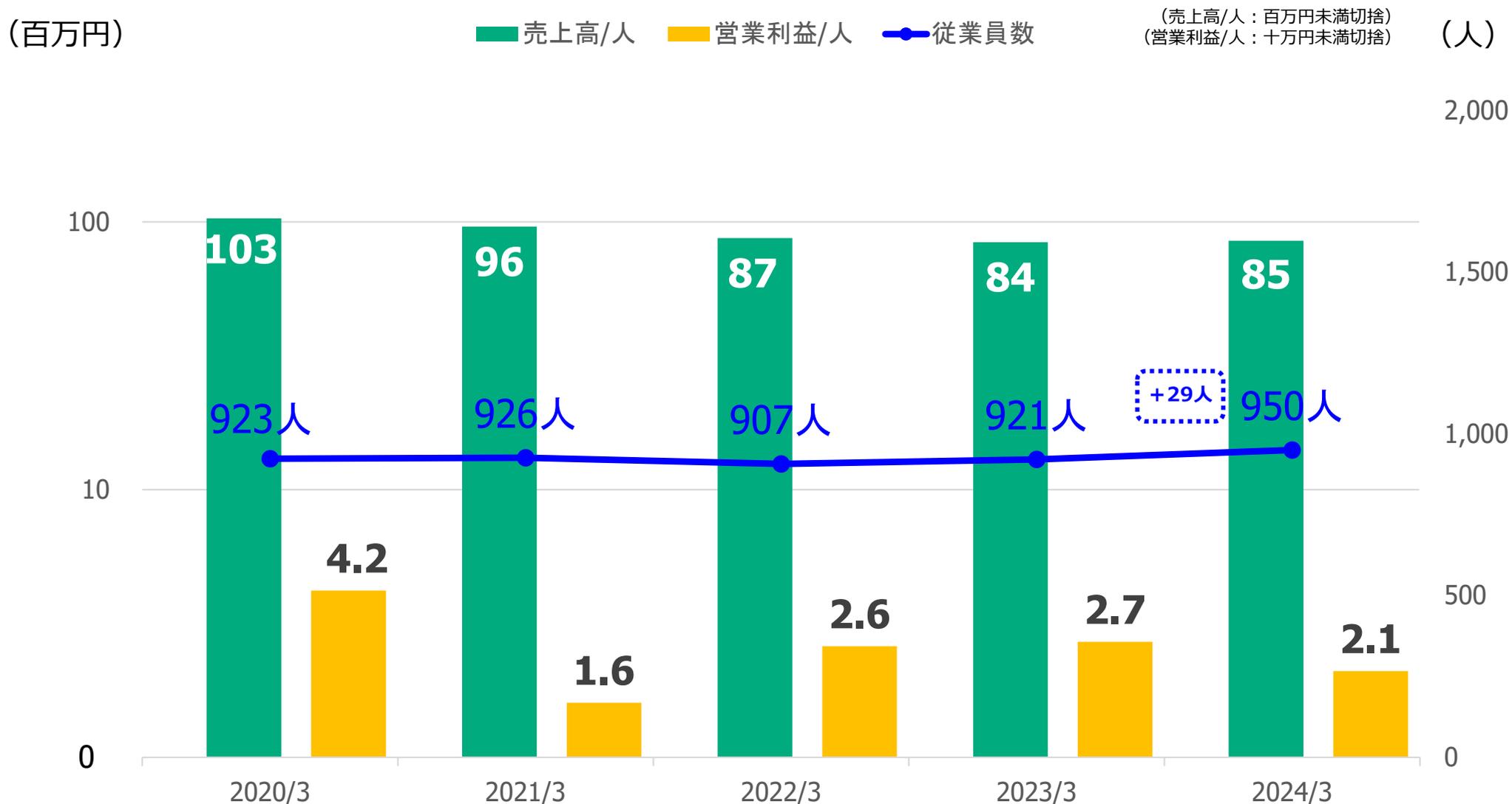
売上総利益

- 土木は、好採算な手持工事の進捗等により増益となったものの、建築は物価上昇等が影響し減益、全体では前期比3億円（△4.0%）の減益。売上総利益率も全体で0.9ポイント減の、10.0%となった。



従業員数および生産性

- 期末従業員数は積極的な採用活動等により**増加**。一人当たりの営業利益は物価上昇等による採算悪化により売上総利益が減少し、前期比**減少**。



貸借対照表

(億円未満切捨)
(単位：億円)

	流動比率 300%以上	2023/3	2024/3	増減額
流動資産		(697)	(685)	(△12)
現金預金		35	23	△11
受取手形・電子記録債権		39	11	△27
完成工事未収入金		471	569	98
預け金		130	37	△92
未収入金		14	35	21
その他		8	8	0
貸倒引当金		△0	△0	-
固定資産		(71)	(77)	(6)
有形固定資産		(24)	(25)	(0)
建物・構築物		2	2	0
機械・運搬具		2	1	△0
工具器具・備品		0	2	1
土地		18	18	-
その他		0	0	△0
無形固定資産		(0)	(1)	(0)
投資その他の資産		(46)	(51)	(5)
投資有価証券		36	24	△12
繰延税金資産		5	17	12
その他		5	11	5
貸倒引当金		△1	△1	0
資産合計		769	763	△6

	支払手形 残高ゼロ	2023/3	2024/3	増減額
流動負債		(199)	(177)	(△22)
工事未払金		97	95	△1
未払法人税等		5	4	△0
未成工事受入金		50	47	△3
預り金		26	7	△19
賞与引当金		9	9	0
その他		10	11	1
固定負債	借入金 残高ゼロ	(44)	(45)	(0)
退職給付引当金		44	45	0
その他		0	0	△0
負債合計		244	223	△21
株主資本		(517)	(537)	(19)
資本金		50	50	-
資本剰余金		147	147	-
利益剰余金		320	340	19
評価・換算差額等		7	2	△4
有価証券評価差額金		7	2	△4
純資産合計		524	540	15
負債・純資産合計		769	763	△6

(自己資本比率) (68.2%) (70.8%) (+2.5%)

(ROE) (6.4%) (6.9%) (+0.5%)

損益計算書

	2023/3	2024/3	増減額	増減率
売上高	78,158	81,541	3,382	+4.3%
完成工事高	77,915	81,431		
不動産事業売上高	242	109		
売上総利益	8,501	8,160	△341	△4.0%
完成工事総利益	8,477	8,141		
不動産事業総利益	23	18		
販売費及び一般管理費	5,926	6,119	192	+3.3%
営業利益	2,574	2,040	△534	△20.7%
営業外収益	1,765	210	△1,555	△88.1%
受取利息・配当金	1,672	199		
その他	93	10		
営業外費用	58	33	△25	△42.8%
支払利息	42	33		
その他	15	0		
経常利益	4,281	2,216	△2,064	△48.2%
特別利益	154	1,332	1,178	+763.2%
子会社株式売却益	152	-		
投資有価証券売却益	-	1,332		
その他	2	0		
特別損失	15	190	174	-
事務所移転費用	-	110		
固定資産除却損	0	59		
訴訟関連損失	14	17		
その他	-	2		
税引前当期純利益	4,420	3,359	△1,060	△24.0%
法人税、住民税及び事業税	946	699		
法人税等調整額	△27	△1,021		
当期純利益	3,501	3,681	180	+5.2%

(百万円未満切捨)
(単位：百万円)

2025年3月期年度経営計画概要

基本テーマ キーワード

「足元を見直し 足腰を鍛え 環境変化へ挑戦」

- 新事業領域の伸展
- ものづくり力の強化
- エンゲージメントの向上

重点施策（事業成長への取組み）

土木

- ①ストックビジネスとしての蓄電池事業他の事業拡大
- ②再生可能エネルギー関連として、風力発電所工事におけるEPCでの継続参画
→ 前期の初参画に続く、継続案件への取組み強化

建築

- ①営業力の拡大（土地テナント紹介、事業コンサル、事業収益向上提案等）
- ②SPC組成、PFI事業への新規取組み

重点施策（組織経営）

- ①海外技術者登用の継続と教育、就業支援の実施
- ②女性活躍の推進（女性管理職比率上昇、育児・介護のための柔軟な働き方の実現等）
- ③ダイバーシティ経営の推進（多様な人材が活躍できる人事管理制度の整備等）

業績予想サマリー

- 受注高は基本戦略の着実な実行により、**増加**を見込む。
- 売上高は豊富な繰越工事の順調な進捗等により**増収**を見込む。営業利益・経常利益は売上増による利益増等により**増益**を見込む。当期純利益は前期の政策保有株式の売却益、繰延税金資産の追加計上の反動により、前期比**減益**となる見込み。

(億円未満切捨)

	2024/3期	2025/3期	
	実績	年度計画	前期比増減率
受注高	897 億円	970 億円	+8.1%
売上高	815 億円	895 億円	+9.8%
営業利益	20 億円	29 億円	+42.1%
営業利益率	2.5%	3.2%	+0.7 点
経常利益	22 億円	30 億円	37.6%
当期純利益	36 億円	21 億円	△41.6%

セグメント別業績予想

(単位：百万円)
(百万円未満切捨)

	2024/3期 実績	2025/3期	
		年度計画	前期比増減率
受注高	89,755	97,000	+8.1%
建築	48,547	49,000	+0.9%
土木	41,098	48,000	+16.8%
不動産	109	—	—%
売上高	81,541	89,500	+9.8%
建築	43,632	46,000	+5.4%
土木	37,799	43,500	+15.1%
不動産	109	—	—%
売上総利益	8,160	9,040	+10.8%
	(10.0%)	(10.1%)	(+0.1 _{ポイント})
建築	3,368	4,390	+30.3%
	(7.7%)	(9.5%)	(+1.8 _{ポイント})
土木	4,773	4,650	△2.6%
	(12.6%)	(10.7%)	(△1.9 _{ポイント})
不動産	18	—	—%
	(16.5%)	(—%)	(— _{ポイント})

(%) 値は売上総利益率を示す。

大阪・関西万博出展に向けた取組み

-未来の水中工事はこうなる-

2025年日本国際博覧会に、当社とコマツが協賛・出展します

当社とコマツは、2025年日本国際博覧会(以下、大阪・関西万博)未来社会ショーケース事業「フューチャーライフ万博・未来の都市」において、超遠隔操作・無人化施工・水中電動などの最先端技術による「未来の水中工事」を世界に発信します。



当社は、コマツが1971年に開発したラジコン操縦の水陸両用ブルドーザーのうち現存する5台全てを所有し、東日本大震災の災害復興を含む1,200件以上の水中工事の中で知見と施工技術を蓄積してきました。

昨今、激甚化する自然災害や切迫する巨大地震に対応するため、危険な水際や浅水域での工事ニーズが高まっています。また、熟練した工事の担い手不足は、深刻な状況です。

当社とコマツは、これらの社会課題解決のため、水深50mまでを視野に、熟練技術がなくとも操作可能な電動式の水中施工ロボットの実証に向け取り組んでおり、安全・快適なオフィスから水中施工ロボットを超遠隔操作する「未来の水中工事」を目指しています。

大阪・関西万博では、この「未来の水中工事」を紹介します。省人化、効率化、安全性の向上が図られた未来の水中工事は、従来の工事を一新し、誰もが活躍でき、より迅速な工事を実現すると確信しています。

2025年4月開幕の大阪・関西万博に是非ご期待ください。



青木あすなる建設

TakaMatsu Group

ご注意：本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。